

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 28日

事業所名 放課後くらぶエイト

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	4	・運動遊びをする際(個別・集団)場所を工夫し支援していく。・活動内容によって、運動は、広い公園や体育館等を活用している。 ・子供の調子に応じた個別の部屋などが必要な時があるが、対応が難しい。 ・集団活動時に、ラインテープを使い区切って整然となるようにしている。 ・それぞれの特性や精神状態に合わせて、スペースの確保を行っている。	・個別で対応する部屋がある方が良い。 ・小グループに分けての活動で屋外を活用する。
	2 職員の配置数は適切である	6	0		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4	・玄関などは、バリアフリーだが室内の段差があり、踏み台を置き対応している。 ・児童の使用スペースにおいては、バリアフリー化されている。	・前年度のご指摘をうけ、玄関にスロープを設置したが、トイレ前に段差がある。今後、室内の手すりなども検討すべきと考える。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1		
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	毎年の評価表を真摯に受け止め、改善に繋げる努力をしている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	・毎年、Facebookにて公開していたが、今年(令和4年)からホームページで公開する。 ・適切に結果を公開している。	・今年(令和4年)は保護者様にホームページを案内し、ホームページで公開する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5		学校の先生達にも見学に来ていただき、支援の様子を知って頂くと共に意見も伺い連携強化していきたい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0		案内が来たものに対して選択しているが、必要と思われるものを探し受けていきたい。事業所内研修も行っていきたい。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	・朝のミーティングでの情報交換を計画に反映させている。又、児童発達支援管理責任者・支援リーダー・児童指導員の役割分担を行い、月案、日案に計画を落とし込んでいる。 ・児発管を中心に日々、職員と連携し本人と保護者のニーズを分析し、計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	・市が行っている、就学時サポート調査をもとにアセスメントを行っている。 ・一人一人に合わせて細かくツールを準備し、使用・支援している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	・子供達の特性に合ったものを取り入れ活動リーダーを中心として職員で話し合い立案している。 ・日々、情報共有を行い立案も考えている。	ミーティングでディスカッションを行っているが活動の内容だけでなく、個人個人への配慮を充実させていきたい。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	・目的がある固定は行っているが基本的には児童が楽しめる様に変動させている。 ・様々なパターン、種類のプログラムを考え、マンネリ化しないようにしている。 ・同じ活動でも日(児童の様子)によってやり方やルールを工夫している。	児童が楽しみながら、成長できるプログラムの構築を目指す。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0		・職員間のコミュニケーションを高め、もっと支援の質を上げたいと考える。 ・計画は立てるが、個別の対応が難しかったり、時間が少なかったりする。個別支援を考慮して支援しているが平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決めておらず目標としたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	・個別支援計画を考慮して支援している。個別の活動と集団活動を同日に行っている。	

15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・朝から職員ミーティングを行っている。 ・朝礼・終礼で話し合っている。申し送りノートも活用している。 	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、振り返りを行い支援の方法を話し合い、次の日に活かしている。 ・振り返りからその児童に対して今後どのように支援をするか話し合い統一支援が出来る様にしている。 	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・支援記録を毎日記入し、全員が支援について、振り返りが行えるようになっている。 ・記録は細かく書き、検証の為にチームで話し合いを行っている。 	記録を基に変化や気付きが分かる様にし支援の検証・改善に生かしていきたい。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成前にミーティングを行い意見交換を行っている。 	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	4	2		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	・送迎時に、職員と先生方とで、引受時に状態などの話し合いを行っている。 ・学校との連携は、児発管を中心に日々、細かく情報を共有し合い、子供たちの支援を協力し合っている。	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換)は綿密なものにしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3	・児童の主治医・関係している病院の聞き取りを行っている。また、事業所でも、担当医を設けている。 ・対象児童が現在は、いないが、連携が取れる体制は整えている。	・医療的な関わりは、今後増やしていく必要がある特に精神科。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	1		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		・専門機関との連携を今後は、更に増やし研修も多く行うことが必要。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5		今年はコロナウイルスの関係で中々難しかったが、今後の状態次第では、検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	・家庭内連携・関係機関連携・連絡帳・送迎時等で情報の共有を行っている。 ・連絡帳を活用したり送迎時に児童の状況を伝えている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2	・家庭内連携時に行うようにしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	・電話での相談、担当者会議、連絡帳などで話し合っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	・コロナの為、開催がなかなか難しい。	・コロナ関係で現在は難しい。コロナが落ち着いたら状況次第で連携を図る必要がある。今後は保護者会の開催を増やしたいと考えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1	・管理者を中心に、外部の方や保護者の意見を現場職員(児童指導員)に周知し意見を出し合い、苦情における対策を話し合っている。	苦情の取りこぼしが無いように工夫したい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	3		会報の発刊をする。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	個人情報の厳守に努めている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	特性に合わせた支援などを分かり易く伝えている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		発表会、慰問を今後の感染状況次第で考えていきたいと思う。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアルは管理者を中心に皆で策定し、周知し合っている。 職員同士では行っているが、保護者には、保護者会でしている。参加されない保護者様には伝わっていない。 	保護者会に参加されない保護者様には伝わっていない。周知できる緊急連絡網を整備していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	<ul style="list-style-type: none"> 消防訓練、避難訓練を定期的に行っている。 	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2		<ul style="list-style-type: none"> これまでは、身体拘束を行う事等、虐待に関わる出来事がなく、意識も低かったが、虐待防止を意識し、委員会を設置し、言葉や態度による虐待を行ってないかの話し合いと研修への参加を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	3		現在は対象児童がいないが、職員間での見解の統一を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	アレルギーの児童に関しては、おやつ等配慮している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	2	<ul style="list-style-type: none"> 作成後、職員全員で共有し再発防止に努めている。 ヒヤリハット報告書を基に話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例集までは、作成していないので、作成し共有していく必要がある。